『発掘宇治’25』

令和７年度　発掘調査・文化財速報

瓦塚古墳発掘調査（11・12 月）

鏡製作体験（8 月）

歴史文化体験

松殿山荘（11 月）

七名園巡り（７月）

文化財防火デー　宇治神社　消防訓練（１月）

小中学生文化財見学会（12 月）

大幣神事（６月）

木幡遺跡発掘調査（１・２月）

宇治市歴史まちづくり推進課

藤原道長が建立した『浄妙寺』

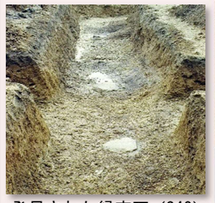
浄妙寺は、藤原道長が一門の菩提を弔うために木幡に建立した寺院で、陰陽師安倍清明・賀茂光栄により堂舎の位置が占われ、寛弘２年（1005）に定朝の師康尚による普賢菩薩を本尊とした法華三昧堂が、寛弘4年には釈迦・多宝仏を本尊とした多宝塔が完成しました。藤原道長の日記などによれば、小川の北側に寺があり、その中心の建物として法華三昧堂と多宝塔がありました。御蔵山の西麓、「ジョウメンジ墓」と呼ばれるあたりが、その浄妙寺跡と伝えられていましたが、昭和42年、木幡小学校の建設に伴う発掘調査により場所が特定できました。その結果、方五間で周囲に縁をめぐらした建物の跡があり、その位置より南約20～30m離れた所に、東より西へ流れる川の跡が発見されました。

① 浄妙寺跡

昭和 42 年 1 月　発掘調査実施
目的：木幡小学校建設
概要：浄妙寺の本堂である「法華三昧堂」の一部が確認され、校舎は建築場所を変更して建設されました。

発掘調査地全景（S42）

浄妙寺周辺地形図（S42）


発見された縁束石（S42）

平成 2 年 7 月　発掘調査実施
目的：木幡小学校校庭改修
概要：遺構を破壊しないための正確な遺構の位置と埋没深度の確認調査を実施しました。「法華三昧堂」の全容を明らかにし、さらに「多宝塔」と思われる遺構も確認しました。

発掘調査地全景（H2）

平成 15 年　発掘調査実施
目的：確認調査
概要：平成 2 年の調査で推測した「多宝塔」の遺構を明確にすることと、学校敷地の西端が寺域に含まれるかを確認するために実施しました。学校敷地の西端では、地表下２ｍで溝やピット等の遺構を検出し、13 世紀代の土器等が出土したため、学校敷地は浄妙寺の寺域に含まれると判断しました。

出土遺物青磁器（H2）

礎石（H2）

平成 16 年　発掘調査実施
目的：確認調査
概要：寺域の北限を明らかにするために、敷地の東側と北側を調査しました。整地層とその下層に 13 世紀代の土器を含む土坑を検出し、鎌倉時代以降にも改修が行われていることと、学校敷地の北端まで寺域が広がっていることが明らかになりました。

発掘調査地全景（H21）

平成 17 年 7 月　発掘調査実施
目的：確認調査及び保育園運動場整備
概要：保育園運動場整備に伴い学校敷地北部の地形と浄妙寺南側の川の位置を確認するために実施しました。方形に地山を削りだした土壇状の遺構を確認しましたが、礎石等は確認できませんでした。また、ピットや土器溜りが円弧を描くように並んでいることが確認できましたが、その性格は不明でした。

出土遺物（H21）

平成 21 年 12 月　発掘調査実施
目的：木幡小学校増築に伴う事前調査
概要：浄妙寺の南限を示す築地塀跡を確認しました。これまで、浄妙寺の南限については、文献の記述から川の跡をもって南限と考えており、それに伴う遺構は確認していませんでした。今回の調査によって、川の北側には築地塀が備わっていることが明らかになり、おそらく調査地の東側には藤原行成が書いた扁額のかかる門があったものと考えられます。

平成 25 年 5 月発掘調査実施
目的：保育園改築に伴う事前調査
概要：新しい園舎を建築する地点 2 カ所を調査しました。調査地の西の道は「三十番神街道」と呼ばれ、宇治市史では中世以降の道とされていますが、浄妙寺の墓参記事には「南辻」などの表現があることや、浄妙寺に西門があったことなどから、浄妙寺の西側には道があったことがわかります。今回の調査では、当初寺域の西限を区切る築地跡や門などの遺構の存在が予想されました。調査の結果、門の跡と考えられるピットや礎石と考えられる石が見つかりました。また、南北方向に並ぶ 2 本の溝も検出しており、浄妙寺の西限を示す区画溝を確認しました。

発掘調査地全景（H25）

土器出土状況（H25）

溝出土状況（H25）

浄妙寺復元想像図

② 金草原遺跡

昭和 63 年 9 月　発掘調査実施
宅地開発に伴い、南北を調査しました。調査地全面で河川堆積の砂層が検出され、北端から 2.6m の地点で旧河川の北岸を検出しました。この旧河川は堂ノ川の旧流路と判断しました。
資材置場の造成に伴い、南北を調査しました。3 ヵ所土坑を確認しましたが、明確な遺構・遺物は検出できませんでした。

③ 金草原遺跡

平成 5 年 12 月　発掘調査実施
集合住宅の建設に伴い、約 15m×6m の 2 ヵ所を調査しました。不正形で皿状の底面の土坑やピットを多数検出していますが、これらは近代の耕作による掘り込みの痕跡と考えられ、性格を特定できる遺構は検出できませんでした。出土遺物としては、土師器がありましたが、細片であるため時期等は不明でした。

④ 金草原遺跡

平成 19 年 2 月　発掘調査実施
金草原遺跡では、かつて茶園の造成中に完形の青磁水注（重要文化財、京都国立博物館蔵）が発見されており、浄妙寺の墓城と考えられていました。集合住宅の建設に伴い、21.5m×3m を調査しました。水分を多く含んだ砂質土で、旧堂ノ川の影響を多く受けた地点であることがわかりました。

重要文化財 青磁水注「e 国宝」参照

昭和 12 年（1937）頃に、発見されました。出土地が浄妙寺の近傍であることや、ほぼ完全な形での出土であることを考えれば、藤原氏一族の誰かの墓に副葬されたものとみて大過ないでしょう。

⑤ 金草原遺跡

平成 24 年 1 月　発掘調査実施
④の調査地から東 150m 圏内にあり、越州窯青磁水注が発見された茶園東側の丘陵地上に位置し、墳墓が遺存する可能性が高いと思われる平坦な場所に限定して、調査地 3 ヵ所を選び、2m 四方を調査しました。遺物等を確認したところ、構造物の痕跡が認められず、遺物が少量出土したのみでした。出土遺物は、古墳時代や奈良時代と思われる須恵器や土師器の破片で、これらの遺物を含む包含層は、尾根の頂上から崩落した土砂が堆積したものと思われるため、尾根上に平安時代よりの古相の遺跡が存在する可能性があると思われます。

⑥ 木幡遺跡

令和 7 年 9 月　試掘調査実施
宅地造成に伴い、試掘調査を実施しました。T 字状の調査区と I 字状の調査区を設定しました。須恵器や土師器、埴輪の細片といった遺物が見つかりました。須恵器や土師器は細かい破片でしたが、剥離が少ないことから調査地付近に元々所在していたのであろうと考えられます。また、その下層で、江戸時代のキセルが出土しましたので、少なくとも江戸時代以降に土地の造成などで、在地の土を動かしていることが分かりました。

発掘調査の概要については裏面へ

発掘宇治
令和8年3月31日発行
宇治市歴史まちづくり推進課
〒611－8501京都府宇治市宇治琵琶33番地

今年度の発掘調査概報　「瓦塚古墳」（令和7年11月～12月）

宇治川の東岸に点在する古墳のうち、瓦塚古墳や観音山古墳、二子山古墳、二子塚古墳は総称して宇治古墳群と認識されています。このうち二子山古墳、二子塚古墳の一部は平成30年に国の史跡に指定されました。

瓦塚古墳は、五ケ庄瓦塚にある古墳時代中期の古墳で、現状は周囲を水田に囲まれています。

古墳の周囲に濠の有無の確認を目的に令和3年度、4年度、7年度に発掘調査を行いました。

一連の調査の結果、古墳周囲に濠が巡っていることがわかりました。

また、濠跡の痕跡を線で繋いでいくと、古墳東部には墳丘が突き出た部分があったことがわかりました。突き出た部分の周辺に配置した調査区からは形象埴輪が複数点出土しており、祭祀などが行われたとされる造り出しと呼ばれる施設などがあった可能性が考えられます。

今年度発掘調査箇所

埴輪片と転落した葺石

今年度の発掘調査概報　「木幡遺跡」（令和8年1月～2月）

木幡花揃で宅地開発に先立ち発掘調査を行いました。

調査の結果、平安時代後期を中心とした遺構を多数検出しました。特に、小さな丘状の高まり、大溝や柱穴、土坑などが主要な遺構です。検出した遺構の年代と同時期に営まれていた有名な遺跡が、調査地のすぐ北側にある藤原道長が創建した浄妙寺です。残念ながら、今回の調査で見つかった遺構が浄妙寺に関連するものかどうかは、発掘調査だけでは判りませんでしたが、今後の近隣の調査成果によって明らかになるものと期待できます。

発掘調査状況

出土遺物

出土遺物

キセル